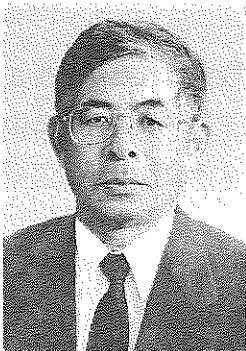


栃木県中学校長会報

[役員所感]

平成13年2月10日 発行 第94号
栃木県中学校長会広報部

「三」つの構え



栃木県中学校長会副会長
二宮町立久下田中学校
校長 豊田 浩

心の触れ合いは、教師も児童も互いに相手の心を大切に、一人一人の人格を尊重することが基本です。一人一人の理解のために、
一、共働・共遊・共学・共汗

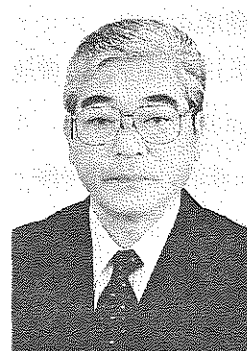
の体験をもつこと。

二、敏感な感受性を鍛えること。

三、受容的な態度をとること。

この三つを心がけ実践していくことが大切と考えます。「一」について、清掃・奉仕活動・学校行事など一緒に汗を流し、苦勞してやり遂げた仕事の後の充実した気分を共に味わい、語り合うことにより児童・生徒との分かり合い、気づき合い、喜び合いができ、信頼関係が一層深まるものと信じています。「二」について、あいさつ・表情・行動・日記・作文などから一人一人の思いや考えを見だし、今何を訴えようとしているのか、何を伝えようとしているのかを敏感に感知し、言葉をかけたり、励ましたり、助言したりすることが大切です。児童・生徒は、そんな一言の中から、思ってくれているんだ、気遣いしてくれているんだということを察知してくれるわけです。言葉一つが信頼・安心の泉になるわけです。「三」について、ともすると教師は「聞き手」としての自分を忘れ、「聞かせる」ことだけに心を奪われがちです。話に耳を傾け、共に考え合う姿勢を持つことが重要と考えます。具体的には、行動の事実に対し「ほめて」→「認めて」→「励まし」、「やった」、「できた」の充実感・成就感を抱かせることが自信となり意欲化になるわけです。そのステップに私たちがどのような期待感のあるヒントを提供してやれるかが課題と思っています。一人一人の変容を見届けながら期待感いっぱいの生活づくりを支援していくことが使命であると考えています。「この生徒がいるから自己向上できるんだ」と自分に言い聞かせ「忘己利他」の精神で教育実践していくことが重要なことと考えています。

雑 感



栃木県中学校長会副会長
大田原市立若草中学校
校長 稲垣 清也

2001年を迎える年末はこれまでとは一寸異なる思いで、今世紀の十大ニュースをTVで観た。

予想に違わず、科学技術の進歩発展に関わる、いわばブ

ラス面の出来事が多くの視聴者に選ばれていた。一方上位三つまでが、あの忌まわしい戦争に関するものが占めていた。広島・長崎への原爆投下では、一瞬に三十万人以上の人が、またこの大戦では世界中で二千万人の尊い命が失われたことが報じられていた。

科学技術の進歩が人間社会にもたらす光と影を、改めて認識させられた思いがする。

人間には、科学技術の進歩・発展が無条件に人間に幸せをもたらすものという思い上がりがあるのではないか。科学技術の進歩と同じく人間の理性の向上・深まりが不可欠であり、両者のバランスが置き去りにされてきたことが二十世紀最大の反省点ではないか、というゲストのコメントに、考えさせられるものがあつた。

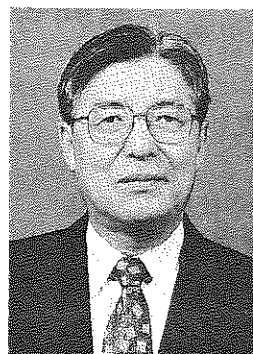
人間の一生は、刻々とその姿を変えながら流れる川の姿に例えられる。小川のせせらぎも、全てを押し流す大河も、激流も淀みもその顔は様々に異なるが、川は上流から下流へと流れて止まらない。人間が知恵を出し、科学技術を駆使してダムを築いても変わることなく続く。人間に出来ることは、川の流れの不易に沿って知恵を出し、その本質を損なうことなく活かすことである。

今学校にも、様々な変革が求められ、様々な装いの実践（パフォーマンス）が試みられている。学校教育は教師と生徒の共同作業によって、そこに集う生徒が自律と成長を獲得する場である。生徒の様々な顔が見えてこない実践など、単なるブームの後追いパフォーマンスでしかなくなってしまう。

21世紀こそ「不易と流行」の見極めと両者のバランスが求められている。

〔役員所感〕

価値観の多様化と落とし所



栃木県中学校長会副会長
栃木市立栃木東中学校
校長 中田 昌宏

時代の潮流として、少子・高齢化と人口の減少、情報通信技術の高度化、環境との共生、参加と連携、国際化等種々

挙げられているが、私がここ数年最も強く感じているのは「感じさせられている」と言ったほうがいいかもしれないが「価値観の多様化」という潮流である。

まず、校内では、価値観の相違からくる、生徒同士、保護者同士、職員同士、あるいは生徒や保護者と職員との激しい軋轢が、年に何回かある。

例えば、保護者からの学校への要望を考えてみても、全く正反対のことが複数の人によって主張されることも稀ではない。また、職員会議等においても、それぞれの主張が妥協点に達せず、時間だけが過ぎていくことが年毎に多くなっている。

次に、マスメディアを見ても、教育問題に関する全くの正反対の主張がぶつかりあっている。特に首相の私的諮問機関「教育改革国民会議」が九月に中間報告をまとめて以来それが顕著になっている。

私は、「教育改革国民会議」の中間報告「一教育を変える十七の提案」をじっくりと読んでみた。「すばらしい提案だな」と感心したものもあったし、「なんでこんなばかげた提案をするのか！」と激しい憤りを感じたものもあった。

また、歴史教科書についても、地方議会をも巻き込んで、はげしい論争が繰り返されている。

落とし所をどこにするか？トップダウンかボトムアップか？「価値観の多様化」にしなやかに対応するリーダーシップとは？これらは常に私の頭の中にある。

第51回全日本中学校長会
研究協議会鹿児島
大会に参加して

事務局長 永野 勝巳 (宇・陽東中)

第51回全日本中学校長会研究協議会鹿児島大会が、10月26、27の両日、鹿児島市民文化ホールを主会場として、全国から2000余名(本県32名)が参加して開かれた。

今大会は、本年度より新しく設定された『「生きる力」をはぐくみ、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育』の研究主題のもと、全体会、分科会で活発な協議が展開された。

開会式のあいさつで高木清文会長は、教育改革国民会議の「中間報告」にふれ、国民会議が提唱した「奉仕活動」について、「各学校で、それぞれの実態に応じて各種の取り組みが行なわれている。(奉仕活動を全国的に実施する場合には)実施主体、内容、期間、方法の面で、多様な在り方を確保することが重要だ。」として、画一的な導入には否定的な考えを示した。また、文部省説明で徳久中学校課長は、この「中間報告」について、「基本に流れている考え方は、教育が一つのサービスだということだ。これまでの学校は、教える側の論理でものを考えていたのに対し、児童・生徒や親の立場にたつての改革を打ち出したのがポイント。こうした考え方(政府レベル)で初めて正式に打ち出されたものだ。」と指摘した。

全体協議会では、全日中から「新しい『教育課程の管理』」、青森県から「学習指導の充実を目指す学校経営の在り方」と題した提案があった。

分科会協議、大会宣言承認が行なわれ、記念講演として、鹿児島大学教授原口泉先生の「維新変革の原動力～薩摩の郷中教育における[学力]を問う～」と題した講演が行なわれ、2日間の大会が成功裡に終了した。

研究学校の発表概要

日光市立日光中学校長
加島 登美子

豊かな人間性を育む
「道德の時間」の研究
—地域の人材活用を通して—

1. はじめに

本研究を受けるにあたって、生徒の実態、教職員の状況、保護者の希望、地域の期待を考え、次のような点をプラス面ととらえた。

- ・ 生徒が地域の方と授業を通してふれあうことで、学校や自分の住んでいる地域への誇りがより高まるのではないかと。
- ・ 教職員にとっては、マンネリ化している道德の授業を見つめ直すよい機会となろう。
- ・ 研究を推進することで、地域のパワーを取り込めるのではないかと。
- ・ 教職員が地域を積極的に知る機会となろう。(学区内に居住する教職員の減少)
- ・ 教職員が役割分担しながら、一丸となって地域の方を取り込む工夫をすることで、資質の向上が図れる。また、地域との連携の手当てが学べる。

以上のような期待をもとに、教職員が積極的に研究に取り組む雰囲気づくりをした。公開研究発表会や研究紀要作りよりも、一人一人が道德の授業そのものに力を注ぐことを目指した。

2. 研究の概要

1) 研究主題

豊かな人間性を育む「道德の時間」の研究
—地域の人材活用を通して—

2) 研究主題設定の理由

- ①今日の社会情勢
 - ②道德教育における地域の教育力の必要性
 - ③優れた人材を輩出している地域の特性
 - ④本校生徒の実態と道徳性検査の結果の考察
 - ⑤学校教育目標
- 以上の観点から研究主題を設定した。

3) 研究組織と研究内容

- ① 授業研究部を中心として、地域の人材をどう授業の中に取り込むか、授業の展開に関する研修を進めた。
- ② 人材活用研究部を中心として、地域の人材を掘り起こし、道德の授業にどのように協力してもらえるか、交渉の窓口として研修を進めた。

③ 調査・資料研修部を中心として、道德教育諸計画の改善、生徒の実態の把握、授業の記録・整理等、研究の土台作りを進めた。

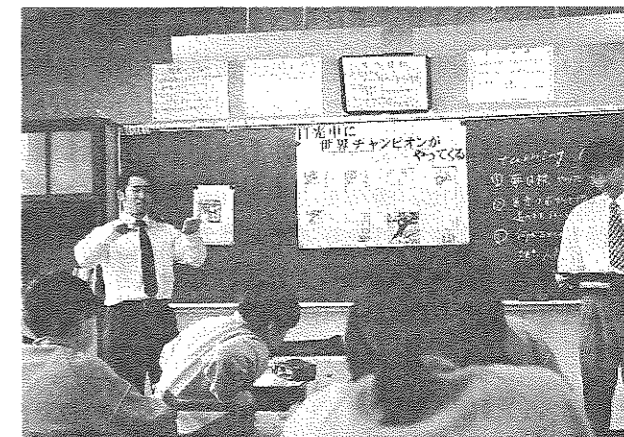
4) 「地域の人材一覧」の作成

スポーツ担当者、ボランティア活動者、伝統文化継承者、野外活動指導者等々、本地域に在住の方、または、本校に深く関わってこられた方を中心に作成した。

3. 研究の実際

(平成12年6月1日、1年の研究授業から)

- 講師：三協精機 羽石国巨氏
スピードスケートワールドカップ1位
- 5月2日 内容項目の決定〔授業研究部〕
1-(2)強い意志
講師選定〔人材活用研究部〕
 - 5月7日 講師派遣依頼文書発送
〔人材活用研究部〕
 - 5月11日 指導案作成〔授業研究部〕
 - 5月18日 講師との事前打合せ〔授業研究部〕
・講話の内容の確認
・授業の流れについて
・会場の様子、準備物等について
 - 6月1日 研究授業〔調査・資料研究部〕



研究授業風景

羽石氏の言葉から

- ・「自分が負けて、初めて負ける意味がわかる。」
 - ・「人間性がだめだと、先に広がっていかない。」
- 生徒の感想から
- ・「自分を信じて、くじけそうになってもやっていくことが大事だ。」
 - ・「夢をもつこと。そして、あきらめないこと。」

4. おわりに

研究の2年目、今までに地球の人材13名の方に御協力いただき、この研究が生徒のみならず、教職員にとっても得難いものとなっている。地域に内在している大きな活力をいただいた。次年度も本校の実態に合わせ是非継続していきたい。

研究学校の発表概要

「生徒一人一人が充実感を味わえる部活動の在り方」

上三川町立上三川中学校長
永井 征 男

1 はじめに

本校は平成10年度から12年度までの3年間にわたり、文部省及び上三川町教育委員会から、運動部活動の充実のための「運動部活動研究推進校」の指定を受け、生徒一人一人が充実感を味わえる部活動の在り方を求め、研究と実践に取り組んで来ました。

申すまでもなく、運動部活動は、生涯にわたってスポーツを楽しむ能力や態度を育て、体力の向上や健康の増進を図るとともに、充実感や成就感を味わい、自主性、責任感、連帯感、協調性等を養い、部員同士、部員と教師の密接な人間的な触れ合いの場となるなど、生きる力を育む上で大きな意義を持っています。しかしながら、部活動離れやマンネリ化、勝利至上主義の指導観などの課題もあり、今までのやり方では生徒に受け入れられなくなってきていて、より柔軟な対応が迫られていました。

2 研究の仮説

充実感を味わせる部活動にするには

- (1) 生徒一人一人の個性を生かし、
 - ア 個に応じた目標やねらいを持たせる。
 - イ 悩み等（技術・精神面）について十分なケアをする。
- (2) 技能や体力の向上を目指して、
 - ア 効率的で科学的な練習をする。
 - イ 保護者や地域との連携を深める。
- (3) 主体的に取り組める部活動を進める。
 - ア 生徒の意見を反映させる。
 - イ マナーやルールを守り、好ましい人間関係をつくる。
 - ウ あいさつや励ましの声かけを習慣化する。

3 研究の組織と実践

(1) 実践研究部

- ア 顧問会議 指導法や運営面の共通理解
- イ 顧問研修会 顧問の資質の向上の研修
- ウ 部長会とリーダー研修会
- エ 休養日の設定 科学的練習と休養日
- オ 部活動オリエンテーション 生徒会主催
- カ 外部指導者の活用 地域連携とリスト
- キ 民間クラブとの連携

(2) 調査記録部

- ア 生徒の実態調査 意識調査
- イ 保護者の意識調査 保護者の願い
- ウ 教師の意識調査 希望や悩み
- エ 広報活動 部活動だよりや部報の発行

(3) 健康安全部

- ア 生徒実態調査 生活・健康・食事等
- イ 各種講話の実施 スポーツ医学等
- ウ 広報活動 生活・健康・安全等
- エ 不応性への対応 教育相談等

(4) 環境整備部

- ア 設備・用具等の実施
- イ 地域との連携 町施設の利用
- ウ 栄光の記録 木札と石碑に記録
- エ 部活動黒板の設置
- オ 部活動コーナーの設置
- カ 安全点検

4 各部の実践 意図的・計画的・多様性

(指導観・生徒・保護者の願い)

5 研究の成果と課題

(1) 成 果

- ア 充実感と意欲的な部活動
- イ 明るく活気に満ちた学校生活
- ウ 保護者の理解と好ましい人間関係
- エ 顧問の意欲と指導力の向上
- オ ニーズと多様な運営

(2) 課 題

- ア 成果の長期的な維持（異動の影響）
- イ 民間クラブとの連携

6 終わりに

以上、研究の骨子を述べさせていただきました。詳細は研究紀要を御覧いただければ幸いです。

平成12年度 各専門部活動報告

☒ 総 務 部

部長 落合 延 行 (宇・泉が丘中)

校長会活動の根幹に関わる事業であるため各種要望書、運営方針、活動の重点等の策定に当たっては事務局と連携を図りながら進めてきました。

以上、本年の活動内容を報告します。

- 1 第1回部会（4月25日）
 - *役員選出と事業計画等の協議
- 2 県教職員副利厚生事業推進協議会の校長会関係の要望集約（6月）
- 3 義務教育振興協議会の校長会関係の要望集約（6月）
- 4 第2会部会（7月6日）
 - *平成12年度県中学校長会の要望書案の策定
 - 要望書の項立てと要望内容の検討役割分担
- 5 第3会部会（8月4日）
 - *要望書のまとめ
 - *平成13年度の運営方針・活動の重点（案）策定
- 6 県教育委員会との懇談会（8月23日）
 - *小学校長と中学校長会合同、各理事とともに要望内容についての口頭説明に対し、義務教育課対応
- 7 第4会部会（9月14日）
 - *平成13年度の運営方針・活動の重点（案）の策定
- 8 各地区での要望活動（9月）
 - *各地区の計画に基づき関係機関及び関係者への要望活動推進
- 9 事務局と役員合同部会（9月27日）
 - *平成13年度の運営方針・活動の重点等の検討

☒ 事 業 部

部長 桑 田 秀 子 (宇・晃陽中)

- 1 第1回研修会 4月25日(火) 教育会館
 - (1) 平成12年度役員・組織の決定
 - 部長 桑 田 秀 子 (宇・晃陽中)
 - 副部長 齋 藤 雄 介 (河・田原中)
 - 〃 百 瀬 基 (上・北犬飼中)
 - (2) 事業内容の確認
 - ア 退職後の生活設計についての研修会
- 2 第2回研修会 11月13日(月)教育会館
 - (1) 「退職後の生活設計について」研修会の持ち方（実施要項・分掌等の確認）
 - (2) 事業部実施事業内容についての進捗状況の確認
- 3 第3回研修会
 - (1) 退職後の生活設計について
 - ア 日 時 平成12年12月5日(火) 13:00~16:00
 - イ 会 場 栃木県教育会館 3階大会議室
 - ウ 内 容
 - (ア) あいさつ
 - 栃木県中学校長 須 藤 光 弘
 - 栃木県教育委員会福利課課長補佐 堀 江 得 也 様
 - (イ) 講 話
 - (a) 医療保険について
 - 栃木県教育委員会福利課共済副主幹兼資格係長 葎 田 昌 様
 - (i) 退職手当について
 - 栃木県教育委員会福利課副主幹兼給付係長 大 野 美 和 子 様
 - (c) 年金制度について
 - 栃木県教育委員会福利課共済事務次長兼年金貸付係長 鬼 頭 行 尚 様
 - (d) 教育福祉振興退職者部会について
 - 栃木県教育委員会福利課退職者部会班長 吉 田 勇 様
 - (ウ) 質疑応答
 - エ 校長会参加者 57名

※ 分かりにくい内容について、丁寧な説明がなされ、活発かつ率直な質疑のうちに終了できたことは大変有意義な研修会であった。

また、終了後も希望された先生方への説明をいただく等、県教育福利課職員の皆様へ感謝申し上げます。



☒ 研修部

部長 谷島利康(宇・一条中)

1 第1回研修会(4月25日)教育会館

(1) 平成12年度役員・組織

部長 谷島利康(宇・一条中)

副部長 上野忠之(芳・真岡東中)

副部長 三添憲公(上・鹿沼北中)

(2) 研修活動計画の設定

・研究主題 「生きる力」を育み、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育

・研究の視点

生徒に豊かな人間性の基礎・基本を身に付け、主体性や個性を生かす特色ある教育活動を展開し、自ら考える「生きる力」を育む中学校教育の創造

・県中学校長会重点研究課題からの研究主題については、平成14年度に引き継ぎ、今年度は関東甲信越地区栃木大会リハーサルの実施に向けての研究を推進する。

2 第2回研修会(6月20日)教育会館

(1) 組織作り及び事業計画概要について

(2) 研究大会運営計画について

(3) 研究集録の執筆要項について

3 第3回研修会(7月27日)教育会館

(1) 研究大会の運営と役割分担について

4 第22回栃木県中学校長会研究大会

(9月7日) 栃木県子ども総合科学館

(1) 開会行事

(2) 全体会

・全体協議題提案

(3) 分科会

・9地区、3会場に分かれて研究発表

(4) 関東地区栃木大会 各部会打ち合わせ

(5) 関東地区栃木大会 企画委員会

5 第4会研修会(10月10日)教育会館

(1) 研究集録の編集

6 第5回研修会(12月4日)教育会館

(1) 研究集録の校正

(2) 次年度活動計画の策定

☒ 調査部

部長 定岡明義(宇・陽西中)

調査部は、例年、全中校長会の教育情報部が実施している「中学校教育に関する調査」に伴う事業を行ってきたが、本年度は同調査が未実施なので、県教委による平成12年度学校基本調査等から中学校に関する部分の一部をここに記載する。

1 学年別生徒数

学年	生徒数	学級数
1	22,530	652
2	22,909	663
3	23,962	691
計	69,410	2,006

2 教職員数

校長	175
教頭	176
教諭等	3,657
事務職	182
栄養職	68

3 教育事務所別校数

河内	30	上都賀	32	芳賀	18
下都賀	30	塩谷	10	那須	26
南那須	8	安足	21	計	175

4 研究学校等一覧 ※〔 〕内は指定平成年度

(1) 県教委関係

① 同和教育

真岡東中〔12・13〕、皆川中〔11・12〕

② 生きる力をはぐくむ学校づくり支援事業

・幼・保・小・中連携促進〔11～13〕

塩原中校区、馬頭東中校区

・豊かな感性や情操をはぐくむ教育活動推進モデル校〔11～13〕

南河内中

③ マイチャレンジ パイロット校〔12・13〕

古里中、豊郷中、藤原中、山前中、玉生中、船生中、黒田原中、馬頭中、坂西中

(2) 文部省関係

① 学校ボランティア等活用推進事業〔12・13〕

星が丘中、足尾中、市貝中、国分寺中、矢板中、日新中、佐・北中

② 教育過程・道徳・生徒指導等

日光中〔11・12〕、栃・西中〔12・13〕、田・東中〔12・13〕



☒ 進路対策部

部長 吉田 沿(宇・豊郷中)

平成12年度の研修主題を昨年度と同様「中学校進路指導の適正な推進と高校教育への提言」と定め、3回の研修会を開催した。概要等は次の通りである。

◇ 第1回研修会 7月1日(土)

① 昨年度までの研修のまとめと今年度事業計画について

② 公・私立高等学校の入学選抜制度について

③ 私立中高等学校連合会代表との協議会の内容について

・次回10月に予定している協議会についての運営方法について細部について話し合いを行った。

◇ 第2回研修会 10月23日(月)

「私立高校の教育について」(懇談会)

① 私立高校の教育について

② 入学選抜について

上記について、建設的な回答を得ることができた。特に年々早まっている私立高等学校の入学試験日については、これ以上早まることはないということ、また、私立高校10数校の入試日を重ならないようにするためにはこれ以上遅くはできないということであった。

また、私立高等学校側からも各中学校で私立高等学校の教育を理解してほしいとの要望があった。各高校とも、少子化の時代に対応して、特色を打ち出しており、入学選考方法の単純化等についてなかなか、統一した回答が得られないものもあった。

◇ 第3回研修会 12月4日(月)

① 先の協議会のまとめ

② 各地区の実情報告(中高連絡協議会)

③ 公立高校への要望(高校の入試改革)

各地区からの中高連絡協議会の実情報告と公立高等学校入試についてであったが、推薦入試の在り方、特に制度(普通科について)の改善の方向で検討してほしい。推薦内定合格者の通知は文書等で意見が出された。

また、調査書(十段階評定の見直しの要望)についての話し合いがあった。これらをまとめ課題として次年度に引き継ぎたい。

☒ 生徒指導部

部長 大塩宗里(小・乙女中)

1 研修概要

【研究課題】

いじめ問題及び不登校等学校不適応生徒への適切な指導と対応

(1) 第1回研修会 12. 4. 25(火)組織作り

(2) 第2回研修会 12. 10. 30(月)実践事例

2 第2回研修の紹介

研究課題について、各校の研究実践事例を発表し合い、合わせて情報交換を行いながら課題解決に役立てることにした。

【実践例】

(1) 地域を巻き込んだ組織体制

「教育を考える親の会」 資料提供 川西中
不適応生徒の保護者との語り

「問題行動対策委員会」 " 野木中
定期的、通常は教員組織

「健全育成委員会」 " 葛生中
地域の各種組織の代表者で構成

「小山市学校生活指導連絡協議会」 " 乙女中
小・中・高、市教委、市警察署

定期的研修会並びに懇親会、合同巡回
「町青少年健全育成地区集会」 " 茂木中

(2) 各種連携

・関係諸機関との連携

・小中連携

小・中間の全職員参加授業参観

児童・保護者の学校参観、

月一回の児童・生徒指導情報交換

・家庭との連携

(3) 校内指導体制

・生徒指導部会の機能化(即連絡・対応)

・日常の授業の工夫改善(わかる授業)

・ふれあい時間の確保

・人権教育の徹底(対教師、対生徒)

・チェック及びチェックリスト作成

いじめ早期発見の職員意識チェック

不登校及び不登校傾向にある生徒の個人票と個人観察指導記録簿

・その他の実践活動

教育相談、校内巡視、挨拶運動、講話

愛の一声運動、各種学校発だより

☒ 修学旅行部

部長 真壁敏夫(宇・姿川中)

平成12年4月28日(倫)県教育会館において、専門部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を次のように決定した。なお、本部会は従来から関東地区公立中学校修学旅行委員会及び全国修学旅行委員会とのかかわりがあり、それらの研究団体との連携を図りながら活動してきた。

1 組織

部長 真壁敏夫(宇・姿川中)

副部長 中田昌宏(栃・栃木東)

“ 中沼利栄(上・加蘇中)

次長 藤田秀夫(宇・宝木中)

地区運営委員

2 本年度の事業概要

(1) 5月26日～27日 関修委総会並びに第1回研究協議会(栃木・藤原町)

(2) 7月13日 関東・近畿・東海三地区公立中学校修学旅行連合委員会(東京文化会館)

(3) 8月11日 関修委事務局へ「平成14年度修学旅行列車申し込み集計表」提出

(4) 9月22日 第2回研究協議会(東京) 輸送計画の調整

(5) 10月10日 輸送計画他県との調整(宇都宮)

(6) 10月20日 第3回研究協議会(東京) 輸送計画決定

(7) 11月17日 第17回全国修学旅行研究大会(群馬・前橋)

(8) 平成13年2月2日 役員代表者会議(群馬・高崎)

年間行事活動報告と新年度対策

(9) 2月16日 第5回研究協議会(東京) 新年度対策

平成12年度修学旅行実施報告書のまとめ

国庫補助金増額の陳情

体験学習の案内作成



☒ 広報部

部長 橋本忠良(河・南河内中)

平成12年度栃木県中学校長会の会報発行に当たったの広報部の構想、部会の開催、会報の内容等は、次のとおりであった。

1. 平成12年度・会報の構想

(1) 会報は年2回発行する。(93号、94号)

内容は、ほぼ従来どおりとする。

(2) 「地区だより」については、「活動計画」と「活動報告」を執筆する地区が固定しないように、年度ごとに入れ替えをする。

(3) 専門部については、前期号(93号)に活動計画を、後期号(94号)に活動報告を掲載する。

(4) 93号、94号ともに12ページ編集を原則とする。

(5) 最後のページに「編集後記」を載せる。部長が執筆するものとする。

(6) 読みやすい会報を目指して、体裁を今年度からA4版とする。

2. 部会の開催

第1回 平成12年4月25日(火)

県教育会館。本年度役員決定。

編集方針等について協議した。

第2回 平成12年7月4日(火)

南河内中学校。会報93号、94号の内容、執筆者の選定、原稿依頼、今後の課題等について協議した。

3. 会報の発行と主な内容

・第93号 平成12年9月7日発行

内容 須藤会長あいさつ、役員所感、退任に当たって(高梨前会長)、各専門部の活動計画、関プロ大会(神奈川大会)報告、新任校長の一言、地区だより、朝会訓話、お知らせ等

・第94号 平成13年2月10日発行予定

内容 役員所感、全日中(鹿児島大会)の報告、研究学校報告、地区だより、各専門部の活動報告等

4. その他

体裁をA4版としたが、いかがでしょうか。

今後とも読みやすい会報づくりに努めます。

〔海外研修視察記〕

中国・紹興市の教育から学ぶこと

栃木市立栃木南中学校長

大木洋三

1 はじめに

平成12年度文部省海外派遣栃木県第91団20名の団長として、10月5日から10月20日までの16日間中華人民共和国に行っていました。このような機会を与えていただきました文部省、栃木県教育委員会、関係機関に心から感謝申し上げます。

以下は、研修先の紹興市での教育の取り組みを率直に紹介するとともに、感想を交えて報告させていただきます。

2 紹興市の教育概要について

紹興市は、人口430万人でその内学生数は60万人、小学校数23校、中学校数17校及び高等学校数3校で、約3万人の教員数を抱えています。

市教育委員会には、50名の職員がおり、学力検討・人事・予算・学校運営検討・高等教育の5つの担当部局から成り立っています。

1996年から小学校を6年間、中学校を3年間の義務教育制度とし、現在高等学校への進学率は85%となっています。今教育委員会の大きな課題は、高等学校への進学率を高めることだそうです。

義務教育における財政面は、全て国が行っています。教員については、所得が高額で、福利面も充実しているため、非常に人気の高い職業であります。定年は男性60歳、女性55歳で、30年以上勤務すると恩給制度もあります。

紹興市は昔から教育に熱心であり、その教育効果により、日本にも留学した周恩来・魯迅・蔡元培などの歴史上の重要人物を多数輩出しています。現在は生活に余裕ができてきたので、教育振興を目指し、立派な私立学校が建設されております。

3 現地の小・中学校を視察して

魯迅小学校、分欄中学校、元培中学校及び私立学校3校の計6校を視察して共通した点は、教室から響く熱気であります。どこの学校でも、教師の熱意と子どもたちの学ぶとする意欲がひしひしと感じられました。

校長1名(校長とほぼ同格で「書記」が1名います)、副校長2名で、2名の副校長はそれぞれに仕事を分担しています。4～5時間の授業の他

に生徒の学習・生活指導関係、図書館の管理、行政関係業務、共産党関係の管理等を分担しています。校長、副校長の年齢は日本よりも若い上に、教師陣もかなり若く、元培中学校の教師の平均年齢は32歳、魯迅小学校では78名のうち56名が35歳以下でした。

各学校では教員の資質向上に努めており、優秀な教員は学校の名誉であり、政府が認定する高級教師の資格取得のため積極的に研修に取り組んでいます。ただし、授業は熱意ある「教師主導型」のスタイルで、1学級60名の教室は窮屈ですが、子どもたちはわき目もふらず真剣な眼差しで学習していて、正に1時間1時間が真剣勝負のように感じられました。

4 外国語専門学校を視察して

紹興越秀外国語学校は、日本では短期大学に相当しますが、高校を卒業する生徒を対象として、厳しい入学試験(10倍)を経て入学させます。英語(1学年6学級)と日本語(1学年2学級)の外国語学級があります。

入学(9月)にて3年目になったばかりの学級の授業を参観しましたが、あまりにも流暢な日本語で自分の考えや、質問に対しての応答をするので、度肝を抜かれてしまいました。語彙が豊富で、しかも文法もきちんとしており、素晴らしい表現をする姿に唖然とさせられた場面がたくさんありました。一人一人の目が輝き、机上には所狭しと分厚い辞書や参考書が置かれ、一目で努力の跡が分かります。3年間で卒業するまでに、国家試験二級合格はもちろんのこと、中には一般合格者もいるとのこと。ほとんどの学生は、メガネをかけていて、「今朝は3時に起きて、懐中電灯で勉強しました。」という学生もおり、その意欲に圧倒させられてしまいました。この学生たちは間もなく社会で活躍し、国家のために、尽力したいと願っているようです。

5 おわりに

中国は今、「改革・解放」の政策の下、次代を見据えて私立学校の建設にしのぎを削っています。これが「一人っ子政策」とあいまって、教育に対する見方には並々ならぬものを感じられました。



地区だより

関地区中学校長会栃木大会に向けて

足利地区

栃木大会を次年度に控え、本地区では「開かれた学校」づくりのテーマのもとに、地区校長会として研究に取り組み、11校の実践をまとめ発表に臨もうと準備を進めている。

本市では、昭和56年にハヴィ・ガースト氏の発達課題と教育の適時性を大切に考える考え方をお手本にして「足利市の教育目標」を設定した。以来、各学校ともこの教育目標を学校経営の重要な指針ととらえて「特色ある学校」づくりに取り組んできたが、これはまた「開かれた学校」づくりの実践であったとも言える。

こうした経緯を踏まえて、「開かれた学校」像を次のように設定した。

- 学習の統合を支える学校
- 学習の主体者を育てる学校
- 地域と共に子どもを育てる学校

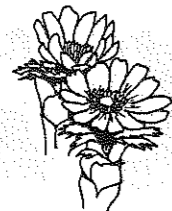
この学校像に迫るためには、学校教育目標の具現化を一層明確にした学校経営を進める中で、職員をはじめ関係者の主体的な参加を得ていくことが大切であると考え、研究のねらいを次のように設定した。

○「開かれた学校」づくりを通し、学校教育目標の具現化を図る。そのために、学校・家庭・地域の三者の相互作用を活発にし、深めていく。

○子どもと子どもを取り巻く学校・家庭・地域という環境との相互作用が子どもの人間形成に有機的に統合されるよう支援する営みを確立する。

具体的な実践事例についてはこの稿では割愛するが、栃木大会では各学校の実践を実例集としてまとめ提案資料として提示する予定である。

ともあれ、提案準備を進める中で地区校長会としての共通理解が進み、実践意欲が高まってきていることは幸いなことである。



研修活動の概要

芳賀地区

芳賀地区の校長会は、1市5町の6地区からなり、豊田浩会長のもと18名、地区校長会としての研究であることを強く認識し、定例研修会を中心に研修に取り組んできた。

〈活動計画の概要〉

1 研修テーマに基づく研修

(1) 研修テーマ

「教職員の意識改革と資質能力の向上」
—指導力・実践力の向上を図る校内研修—

(2) 研修内容

同地区とは言い、各学校が置かれている教育環境や特色などの違いがあるので、それぞれの地域や学校の実情に合わせた校内研修を実施し、その成果を持ち寄って協議し、研究を深めた。そこで得られた校長としての指導力・実践力は、それぞれの学校における教師の意識改革や資質能力の向上により大きな力となった。

(3) 定例研修会の概要

- ・4月6日 ・研修計画の決定
- ・6月5日 ・研修テーマに基づく各校の取り組みの概要
- ・13年度関地区栃木大会の研修計画と役割分担
- ・7月3日 ・各校の取り組みの様子報告
- ・9月5日 ・各校の取り組みのまとめ
- ・県中学校長研修会の提案内容の検討
- ・11月2日 ・研究成果の確認とまとめ
- ・3月2日 ・反省と次年度の研修計画

2 その他の研修

- (1) 情報交換、連絡調整（各研修会后）
- (2) 小中合同研修会
 - ・9月5日 ・施設見学（二宮町内）
 - ・11月2日 ・講演会
- (3) 中高連絡会（6月30日、10月10日）

平成12年度の研修活動

小山地区

小山市校長会は、市内11校の校長によって活発な研修を推進している。本年度は、定例研修会県外教育事情調査をはじめ、次のような研修を実施してきた。

1 小山市独自の課題研修

(1) 研究主題

「[生きる力]をはぐくみ、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育」
～豊かな体験を通して心を育てる教育～

(2) 研究の概要

年間8回の研修会において、前年度の研究成果を生かし、更に深めるために副主題に視点をあて主題を明確にした。

特に、「校長としての関わり」について意識化し、豊かな体験を通して心を育てる教育活動の検討・見直しを行い、具体的な方策の研究を進めた。

2 関プロの課題研究

関地区研究協議会の提案担当地区が小山・栃木地区になり、主として小山が中心となって研究を進めている。

(1) 研究主題

豊かな体験を通して心を育てる教育
—体験活動等を生かした心に響く道徳教育—

(2) 研究の概要

小山市の課題研修を道徳教育に視点をあて生徒の心に響く教育を模索しようとした。

- ア 研究の視点を明らかにする。
- イ 各校において実践する。
- ウ 道徳の授業との関わりを明確にする。

3 県外教育事情調査

- (1) 視察校 仙台市立長町中学校
- (2) 研修内容 学校評議員制度の取り組み

4 市教育委員会との懇話会

- 5 前教育長 古口紀夫先生の講話
- 6 総合的な学習の評価についての方向付け
- 7 平成14年度実施の新教育過程の編成と年計作成の方向付け
- 8 生徒指導上の外来者対応マニュアルの作成
- 9 情報交換・連絡調整

以上のような研修を進めつつ、新しい学校経営の有り方を模索している。

平成12年度の研修活動

塩谷地区

塩谷地区中学校校長会は、10名で構成され研修活動に取り組んでいます。本年度は特に、中学校教育に関する調査研究・対策活動並びに組織的な研修活動を重視し、本地区中学校教育の一層の充実をはかることを運営の方針とし、次の4項目を努力目標としています。

- 1 人間性豊かな生徒の育成を目指し、中学校教育の活性化を目指す。
- 2 県中学校校長会との緊密な関係を図り、学校運営上の課題を究明する。
- 3 中学校教育の現状を的確に把握し、課題の解決に努める。
- 4 教育関係機関・諸団体との連携を図り、適切な対策活動を展開する。

(1) 研修活動

- ◇ 進路指導の研修 ◇ 「総合的な学習の時間」の研究 ◇ 移行措置の適切な実践 ◇ 校長の指導性と運営上の諸問題

(2) 対策活動

- ◇ 教育諸条件の整備 ◇ 教職員の勤務意欲の向上 ◇ 教育振興懇談会の開催 ◇ 教育関係諸機関・団体との連携

(3) 研修計画

- 1 4月7日 組織編成・運営について
研究テーマの設定
- 2 5月30日 研究テーマに基づく研修①
学校運営上の諸問題
- 3 7月26日 研究テーマに基づく研修②
総合的な学習への取り組み
- 4 8月17日 研究テーマに基づく研修③
学校運営上の諸問題
- 5 1月13日 生徒指導（いじめ・不登校・進路指導）
中学校教育の諸問題
- 6 1月18日 創意ある教育過程の編成①
校長の指導性と運営上の問題
- 7 2月23日 本年度の反省と次年度の計画
創意ある教育過程の編成②

平成12年度の研修活動

南 那 須 地 区

南那須地区中学校長会は、鈴木功会長のもと新会員3名を迎え8名と少人数ながら活発な研修活動を展開している。

研修会を年間5回計画し、研修テーマ「望ましい集団活動を通して自己実現を図る特別活動」とした。

研修計画

1. 4月6日 組織編成・研修計画
2. 5月11日 研修計画に基づく研修等
3. 7月27日 研修計画に基づく研修等
4. 10月6日 研修計画に基づく研修等
5. 2月27日 本年度の反省と今後の課題

(1) 研修の概要

ア 研修計画

- ・各学校の実践例検討
(事例研究)

- ・校長のかかわり方の研究

イ 研究方法

- ・実態把握
- ・実践例検討(実践例検討)
- ・校長としてのかかわり方

ウ 研究の実際

(ア) 校長としてのかかわり方

- 方針の明確化と明示
- 組織と分担の明確化
- 責任所在の明確化と評価

(イ) 研究の実践例

- 学校環境緑化活動推進イメージ図
- 緑の少年活動(生徒会)
- 各活動に際しての校長のかかわり

(2) 諸問題協議

(ア) 学校運営上の諸問題について

- 情報交換・共通理解を図り校長としての資質の向上に努めている。

(イ) 全国その他の大会の報告

このほか、小中学校長合同で年3回の研修と地区内中・高校での年3回研修会を実施している。

研修活動の概要

河 内 地 区

河内地区校長会は、9名で構成されている。今年度も、会員の資質向上のために以下に述べるような活動をしてきた。

I. 本会独自の研修会

(1) 第1回 4月14日(金)

- ・郡中教研各部長の選出 ・修学旅行研究大会、進路指導関プロ大会について

(2) 第2回 7月7日(金)

- ・第52回関東地区中学校長会研究協議会(神奈川大会)の参加報告
- ・次年度に行われる第53回栃木大会について。特に、全体協議題についての説明と話し合い(塚原・明治中校長から)

- ・生徒指導面での情報交換。

(3) 第3回 11月2日(木)

- ・第51回全日本中学校長会研究協議会(鹿児島大会)の参加報告・県中学校長会理事研修会の報告・特色ある学校づくり、開かれた学校づくりについての話し合い。

II. 宇河中・高校長連絡協議会

(1) 第1回 6月30日(金)

(2) 第2回 11月27日(月)

- ・中学校、高校からのそれぞれの質問事項に対して活発な質疑が行なわれ、お互いに理解を深め合うことができた。

III. 宇河中学校長合同研修会

年に2回の研修会で、研修を深めている。

〔編集後記〕

立春も過ぎました。各中学校とも、年度末の忙しい時期を迎えます。各校長先生方におかれましては、健康にはくれぐれも御留意の上、お励みくださいますよう。
(橋本)

〔訃報〕 塩谷町立大宮中学校長・笹 沼 浩先生におかれましては、平成13年1月7日午前10時16分、くも膜下出血のため御逝去されました。先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。